

成長診断(Growth Diagnostics)

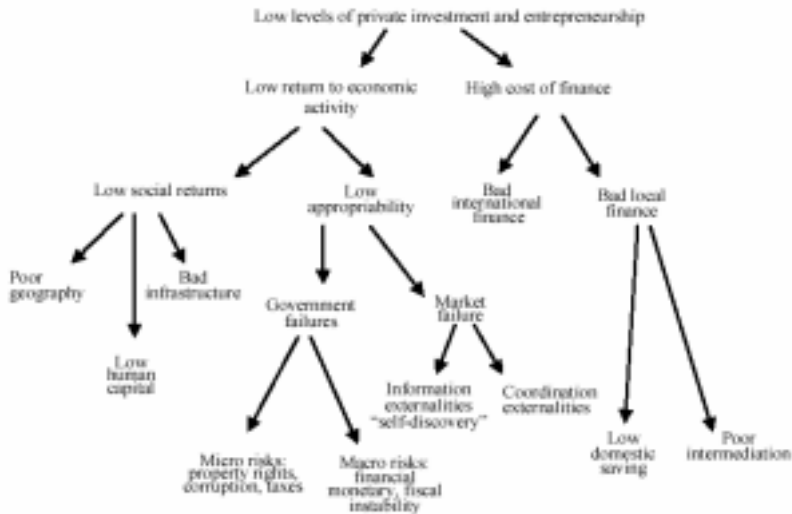
途上国での適用状況と 日本へのインプリケーション

2008年4月24日
GRIPS開発フォーラム

背景

- ワシントン・コンセンサスが推し進める画一的で総花的な改革(特にガバナンス等の「第2世代」改革)は、途上国政府の能力等を考えると野心的であり非現実的
- 成長を妨げる最も根本的な制約要因(binding constraints)を特定し(ツリーによる整理)、それにフォーカスして改革を行うことを提示
- Hausmann, Rodrik, Velasco(HRV)モデルとして体系化

HRVモデルとツリー



出所: "Growth Diagnostics" (Hausmann, Rodrik, Velasco, 2005)

HRVモデルの考え方

- 問題分析の出発点は、「低い民間投資と企業家精神」
- 内生的成長モデルに基づき、民間投資が低い原因を物的・人的資本の生産性、投資利益の還元度、資金調達コスト等の要因に分けて特定
- ハーシュマン「不均衡成長理論」(1958)と共通性あり: 集中的投資が引き起こす波及効果(前後方連関)によって、経済成長を図る

(参考 ADB/2008)

途上国での実施状況

- Harvard Univ. (CID) : 南ア (2007年～)、ペルー
- WB :
パイロット国 (12カ国) : アルメニア、バルト諸国、バングラデシュ、ブラジル、カンボジア、エジプト、インド、マダガスカル、モロッコ、タンザニア、タイ (2005～2006年)
2006年以降は、CEMへのインプット (ウガンダ、モンゴル、ボリビア、マリ、ベナン、エチオピア等) の他、PRS策定プロセス (リベリア) にも活用
- IDB :
パイロット国 (ブラジル、グアテマラ、ジャマイカ、ニカラグア、トリニダード・トバゴ) においてHRV手法を適用 (2006年～)。エクアドル、アルゼンチン、チリ等でも検証
- ADB :
フィリピン、タジキスタン等4カ国におけるパイロットTAを実施 (2007年～)
- DFID :
マラウイ、ルワンダで実施

ドナーによるHRVモデルの活用例： 国別支援戦略へのインプット

- WB
・CEM (Country Economic Memorandum) へのインプット: 成長に貢献するセクターの絞込みに活用する傾向あり
- ADB
・処方箋の提示まで含むべく広域技術協力 (RETA) を通じて作業中 (ADB職員・途上国向けハンドブックを策定中)、CSP (Country Strategy and Program) へのインプット
- DFID
・政策文書 “Growth: Building Jobs and Prosperity in Developing Countries” (2008) : 今後更なる改善が必要としながらも、HRVモデルの考えを取りこむ方針。International Growth Centre を活用しながら国別支援戦略や合同支援戦略の策定を行う予定
・世銀 (ルワンダ等5～6カ国)、米国MCC (ルワンダ、マラウイ、モルドバ) と連携予定
・International Growth Centre (2008年秋以降稼動) の設置: 主要な大学・研究機関との連携による成長診断の実施等
- Sida
・ “Integrated Economic Analysis for Pro-poor Growth” (2006) :
貧困層の雇用と所得増に焦点を当てた分析手法: ビジネス環境分析の際にHRVモデルを活用

各国の成長診断の比較(例示)

国名	実施機関	目的・活用法	絞り込みの手法	主な内容	処方箋の有無:特定の地域、セクター等
モロッコ	世銀 2005	CEMへのインプット	HRVと同じツリー 多くの経済統計を活用	Low appropriabilityとしているが、CEMの一部であるため、他の章(投資環境、輸出振興、雇用創出等)と合わせると総花的	Policy recommendations有 生産部門多様化(タンジェFTZ、トマト振興、観光振興)とその環境整備(税制改革)
ボリビア	世銀 2006	CEMへのインプット	HRVと同じツリー	マクロ分析	なし
ウガンダ	世銀 2007	CEMへのインプット	HRVと同じツリー	マクロ分析&成長促進に重要なセクター(インフラ、金融)分析	農業、インフラ(電力・運輸、地域を特定)、金融セクター強化等(短期目標)(10提言)
モンゴル	世銀 2007	リサーチ(Working paper)	HRVと同じツリー	マクロ分析&ビジネス環境分析 "Not all constraints a country faces are binding"	なし
エジプト	IMF 2007	リサーチ(Working paper)	HRVとほぼ同じツリー	現行の改革は制約要因の除去・解消に効果的としている	なし
マラウイ	DfID (マラウイ) 2007	実務へのインプット	HRVツリーにより制約要因を特定後、現在の支援状況とのギャップを分析	最重要制約(5)、業種別制約(4)、条件付制約(8)、情報不足で判断保留(7)	電力、水供給、農道等への言及あり
フィリピン	ADB 2007	国家中期開発計画へのインプット	成長(HRVツリー)&貧困削減	成長(4)、貧困削減(3) 提言は総花的な内容	特定の産業、地域に関する言及はなし
フィリピン	世銀 2008	リサーチ(Working paper)	HRVツリーなし	HRVが前提とする「民間投資」が低くとも成長した例として、低い民間投資は制約要因ではないことを暗に示唆(=国によりHRVツリーは異なる)	経済特区振興、為替切り下げ

事例1:ウガンダCEM(世銀)

- HRVを参考にしながらも、現場に近いところから問題意識を拾い、それをTFP分析、CGEモデル、空間経済学等の手法を用いて叙述したもの
- 世銀内の評価は高く、DFIDも成長に関する政策文書内でHRV手法の適用事例として言及
- 特にインフラ、金融セクター強化に焦点
- 農業の重要性に言及しつつ、急増する労働供給を吸収できないため輸出志向の工業化が必要である点を指摘
- 中小企業の物理的位置と道路インフラの地理的優先順序を空間経済学的手法を用いて分析

事例2 : マラウイ(DFID)

- HRVツリーに基づいた問題分析後、8つの制約要因に対する政府の取組やドナー支援の状況とのギャップについても分析(gap analysis)
- 世銀等の分析作業がデータを多用しているのに対し、文章を主体としているため実務担当者にはフレンドリーか
- 短期的な制約要因(例:電力)に加え、潜在的な制約要因(例:資源管理)についても言及
- セクター、地域別の制約要因についても言及(農村インフラ、金融セクターの法整備)
- HRV手法の課題
“The approach has attractions, but there is a risk that it becomes viewed like the earlier developmental debates on the ‘magic bullet’ where a single solution/fix was sought for a particular development problem.”

暫定的評価・教訓など

- 実務面へのインプリケーション:金太郎飴ではなく、**国別アプローチの重要性を裏付けるもの**として重要
- HRV手法の限界:**処方箋の提示に至らない**点等の指摘(WB/2006, IMF/2006, ADB/2008)。ただし、いくつかの調査は特定産業・地域に絞り込んだ提言を提示
- **方法論の確立に向け、ドナー、研究者が検証作業を実施中**。今後も幅広い国で実施予定
- 他の診断ツールとの併用が必要(セクター戦略、ステークホルダー分析、ICAやPER等マイクロレベルの分析)
- ただし、その多くはドナー主導による作業。現地の人材・研究者等との共同作業が必要ではないか(特に改革の優先順位をつけるのは国内関係者間との協議が必要ではないか?)

今後想定される論点

- Inclusive growthの概念

まずは成長戦略を、貧困・分配問題と切り離して策定するのか、それとも経済成長が貧困層に直接裨益し、貧困層が成長の主役になることを想定した分析ツールにするのか

(Pro-poor growthの概念との関係?)

日本へのインプリケーション

- 成長診断: 既に主要ドナーのツールとして広がりつつある
- 日本としては歓迎すべき。同時に、日本が付加価値をつけていく意義大
例: 途上国との共同作業方式、具体的な処方箋の提示
- 他ドナーとの連携が不可欠
数カ国における成長診断の合同実施、重点セクター(アフリカの場合、インフラはcommon binding constraint)を対象とした取組など...
- そのためにも重点支援国候補の絞込みが急務
- 今後、必要な作業
HRVアプローチのレビュー(研究面)
各国事例の整理

参考文献・サイト

- “Growth Diagnostics”
R.Hausmann, D.Rodrik, A.Velasco (2005)
- Dani Rodrik ウェブサイト
各国の成長診断がダウンロード可
http://ksghome.harvard.edu/~drodrik/Growth_Diagnostics_Index.html
- WB/2006
“Getting Out of the Rut” (D.Leipziger, R.Zagha, Finance and Development, March 2006)
- IMF/2006
“Growth and Reforms in Latin America: A Survey of Facts and Arguments” (J.Zettelmeyer, IMF Working Paper WP/06/210)
- ADB/2008
“Rethinking the Growth Diagnostics Approach: Questions from the Practitioners” (Jesus Felipe, Norio Usui, April 2008)